

旭労災病院ニュース

病院情報誌

第 157 号

令和元年 08 月 1 日発行

発行所: 旭労災病院

〒488-8585

尾張国守平字北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

褥瘡対策の活動について

皮膚科部長

森 誉子

皮膚・排泄ケア認定看護師

西島 千恵

平成 24 年度より褥瘡患者管理加算が入院加算に含まれ、褥瘡対策は標準的に実施されることが義務付けられました。

当院周辺には多くの介護施設があり、入院患者の多くは高齢者となっています。高齢者の皮膚は皮下脂肪の減少、保湿機能が低下し、皮膚は乾燥や菲薄化した状態となり、褥瘡が発生しやすく、さらに低栄養状態、るいそう、拘縮、失禁、寝たきりなどの褥瘡発生要因は多くの入院患者にみられる特徴のため、入院時から褥瘡予防対策が必要となります。

当院では褥瘡対策委員会によって作成された褥瘡マニュアルに沿って、入院時に褥瘡発生リスクアセスメントを行い、ADL に合わせた体圧分散寝具を選択し、入院時から褥瘡予防対策を行っています。

循環器や呼吸器の内科系病棟では寝たきりや低栄養状態などの患者自身による要因があり、整形外科・外科の外科系病棟では術後の安静や医療関連機器による圧迫が要因といった、病棟によって主な発生要因は異なります。よって各病棟のリンクナースと、情報交換を行い、患者個々に合った褥瘡予防対策を考えていく必要があります。

褥瘡保有患者も同様に褥瘡リスクアセスメントを行い、体圧分散寝具は優先的に体圧分散エアマットレスを選択しています。そして毎週火曜日に褥瘡対策チームが各病棟を回診し、褥瘡の早期改善に向けて定期的に管理を行っています。褥瘡対策チームのメンバーは皮膚科医、褥瘡対策委員会師長、皮膚・排泄ケア認定看護師、病棟看護師、管理栄養士、理学療法士、事務で構成されています。局所から全身のアセスメントを行い、早期治癒に向けて看護ケアや栄養管理、ポジショニングについてそれぞれの専門性を活かして褥瘡ケアを行っています。

るいそうや食思不振などの低栄養状態は褥瘡の発生リスクを高め、褥瘡の治癒遅延にもつながります。低栄養状態の改善が必要であると判断された場合は、NST チームに栄養状態の改善について依頼を行っています。NST チームは内科医、外科医、NST 委員会師長、摂食・嚥下障害認定看護師、管理栄養士・薬剤師から構成され、治療のため絶食となっている患者や、食思不振により栄養改善が必要な患者を対象に、栄養改善を図ることを目的に回診を週 1 回行っています。

最後に、褥瘡は患者に痛みや食欲の低下、ADL 低下などの悪影響を与えてしまいます。新たな褥瘡発生の予防や早期褥瘡治癒に向けて、今後も多職種が連携し、チームで継続的な褥瘡対策を行うようにしていきたいと考えています。

